

「リスク調整アウトカム指標」一覧

- ・ 2014年度の貴院の値を表示しています
- ・ 指標番号をクリックすると詳細レポートが表示されます。
詳細レポート内で過去の指標値なども参照できます。

死亡率など、「アウトカム」を比較するとき、単純な比較ではうまくいかないことがあります。

例えば高齢者が多い施設では死亡率は高くなることが予測されるなど、患者の「背景」を考慮する必要がありますと考えられます。

そこで、そのような背景因子を「調整する」手法として、統計学の回帰モデル（ロジスティック回帰モデル）を利用して、平均的な「予測死亡率」を算出し、それと実際の死亡率を用い、O/E比を計算しそれに平均値を掛け合わせることで算出した予測死亡率を指標としてご提示しています。

予測値はすべての病院のデータを利用しています。使用する因子は定義書に記載しています。

リスク調整は統計学的なモデルのシミュレーションであり、完璧なものではありません。それを考慮したうえでの解釈が必要です。

具体的には、厳密な数値を検討するより、たとえば粗死亡率（調整なし）も高く、調整後も明らかに高いような施設では、ほかの病院と比較して死亡率が高い可能性があり、診療を見直してみるきっかけになる指標であると考えています。

[各指標の定義はここをクリックしてください](#)

貴院の指標値と病院間比較 全病院平均値：年度内全病院全症例をあわせた平均値
推移 — 青線：貴院のリスク調整死亡率 — 黄線：全病院の平均粗死亡率


脳卒中


指標番号	指標名	2014年度の貴院の粗死亡率	2014年度の貴院のリスク調整死亡率
4001	急性期脳梗塞におけるリスク調整院内死亡率 [定義]	1.7%	1.9%±0.1%

呼吸器

指標番号	指標名	2014年度の貴院の粗死亡率	2014年度の貴院のリスク調整死亡率
4005	市中肺炎症例におけるリスク調整院内死亡率 [定義]	3.7%	4.0%±0.8%

循環器系疾患 リスク調整アウトカム

2014年度の全 病院平均粗死 亡率	推移
6.7%	




2014年度の全 病院平均粗死 亡率	推移
9.6%	

指標番号	指標名	2014年度の貴院の粗死亡率	2014年度の貴院のリスク調整死亡率
4003	急性心筋梗塞（AMI)患者におけるリスク調整院内死亡率 [定義]		±
4004	急性心不全（AHF)症例におけるリスク調整院内死亡率（急性心筋梗塞症例は除く） [定義]	0.0%	0.0%±0.0%
4006	急性心不全（AHF)症例におけるリスク調整院内死亡率（急性心筋梗塞症例は除く） 2016 [定義]		±

心・大血管手術

指標番号	指標名	2014年度の貴院の粗死亡率	2014年度の貴院のリスク調整死亡率
4002	冠動脈バイパス手術（CABG)患者におけるリスク調整院内死亡率 [定義]		±

[TOPへ戻る](#)

2014年度の全 病院平均粗死 亡率	推移
20.3%	
11.1%	
	

2014年度の全 病院平均粗死 亡率	推移
3.5%	